

目次

1. 現在完了・現在完了進行形

2. 分詞

3. 間接疑問文

4. 関係代名詞

5. 後置修飾

6. 形容詞

7. 副詞

8. 付加疑問文

9. 文型

10. 仮定法

単元名：現在完了・現在完了進行形

現在完了：過去が現在と結びついている状態。現在完了には継続、経験、完了・結果という用法がある。各用法は使われる単語によって判断することができる。

現在完了進行形：過去のある時点に始めた動作が今も進行中である場合は現在完了進行形を使う。

現在完了の用法

- ① 継続「(ずっと) ~している。」

主語 + **have(has)** + 過去分詞 + その他.

I have played soccer for two years.

(私は2年間サッカーをしている。)

Ryo has been here since last week.

(リョウは先週からここにいる。)

※継続用法では **for** や **since** が使われる。

for の後ろは **for a long time** や **for five days** など期間を表す言葉になる。

since の後ろは **since yesterday** や **since 2019** など始まった時点になる。

また、**since** は接続詞としても使う。

- ② 経験「~したことがある。」

主語 + **have(has)** + 過去分詞 + その他.

I have met Rola before.

(私は以前にローラとあったことがある。)

※経験用法では **before** や **twice** など回数を表す言葉がよく使われる。

have(has) been to 「~へ行ったことがある。」

I **have been to** Osaka many times.

(私は何度も大阪へ行ったことがある。)

※現在完了では「～へ行ったことがある。」を表すとき、go を使わず、**have been to**を使う。

③ 完了・結果「～したところだ。」「～してしまった。」

主語 + **have(has)** + **過去分詞** + **その他.**

They **have just got** to the station.

(彼らはちょうど駅に着いたところだ。)

※完了・結果用法では **just**、**already** がよく使われ、過去分詞の前に置く。

have(has) gone to 「～へ行ってしまった。」

「過去に～へ行き、その結果、今ここにいない。」という意味。

Ms. Tanaka **has gone to** China.

→Ms. Tanaka **went to** China. She **isn't** here now.

(田中さんは中国に行った。 彼女は今ここにいない。)

現在完了の疑問文の作り方

① 継続

Have(has) + **主語** + **過去分詞** + **その他** + **?**

(**I have** lived in Tokyo for two years.)

Have you lived in Tokyo for two years ? – Yes, I have./No, I haven't.

(あなたは東京に2年間住んでいるのですか。)

はい、そうです。/いいえ住んでいません。

期間をたずねる **How long ~?** 「どのくらいの間~?」「いつから~?」

How long have you been sick ? – Since yesterday.

(あなたはいつから病気なのですか。 昨日からです。)

※継続用法では **When ~?** や **~ago** は使わない。

② 経験

Have(has) + **主語** + **(ever)** + **過去分詞** + **その他** + **?**

Have you ever been there ?

(あなたは今までにそこに行ったことがありますか。)

回数の尋ね方 **How many times**、**How often**

How many times have you been abroad ?

(あなたは何回海外に行ったことがありますか。)

③ 完了・結果

Have(has) + **主語** + **過去分詞** + **その他** + **(yet)** + **?**

Have you finished making the desk yet?

(あなたはもうその机を作り終えましたか。)

- Yes, I have./No, I haven't.(No, not yet.)

(はい、終わりました。/いいえ、まだです。)

※完了・結果用法の疑問文は **yet(もう)** を使うことが多い。

現在完了の否定文の作り方

① 継続

主語 + **have(has)** + **not** + **過去分詞** + **その他.**

Yumi hasn't eaten anything for two days.

(ユミは2日間、何も食べていない。)

② 経験

主語 + **have(has)** + **not** + **過去分詞** + **その他.**

I have never seen such a big dog.

(私はそんな大きな犬を一度も見たことがない。)

※経験用法の否定文は **not** の代わりに **never** 「一度も～ない」 が使われることがある。

③ 完了・結果

主語 + have(has) + not + 過去分詞 + その他.

Mei **hasn't listened to** the song **yet**.

(メイはまだその歌を聴いていない。)

※完了・結果用法の否定文で出てくる **yet** (まだ) は疑問文のときと意味が変わる。

現在完了進行形の肯定文の作り方

「(ずっと) ~し続けている」

主語 + have(has) + been + 動詞の ing 形 + since/for + その他.

It **has been raining** since this morning.

(今朝からずっと雨が降り続けています。)

I **have been playing** soccer for two hours.

(私は2時間ずっとサッカーをし続けています。)

現在完了進行形の疑問文の作り方

「(ずっと) ~し続けていますか」

Have (Has) + 主語 + 動詞の ing 形 + since/for + その他 + ?

Have you been playing soccer for a long time? — Yes, I have. No, I haven't.

(あなたは長い間サッカーをし続けていますか。)

はい、し続けています。いいえ、し続けていません。)

「どれくらい長く（ずっと）～し続けていますか」

How long+**have (has)**+**主語+動詞の ing 形**+**since/for**+**その他**+**?**

How long have you been playing soccer? – **For two hours./Since this morning.**

(あなたはどれくらい長くサッカーをし続けていますか。

2時間し続けています。/けさからし続けています。)

現在完了進行形の否定文の作り方

主語+**have(has)**+**not**+**been**+**動詞の ing 形**+**since/for**+**その他.**

I have not been playing soccer for two hours.

(私は2時間ずっとサッカーをし続けていません。)

単元名：分詞

分詞：動詞が変化したもので、過去分詞と現在分詞の2種類がある。

過去分詞→「～される、された」

過去分詞の用法

- ① 受動態（受け身）：be 動詞＋過去分詞
- ② 現在完了：have＋過去分詞
- ③ 形容詞的用法：名詞を修飾する。

現在分詞→「～している」

現在分詞の用法

- ① 進行形：be 動詞＋現在分詞
- ② 形容詞的用法：名詞を修飾する。

※動詞の **ing** 形で、「～すること」の意味は「動名詞」であり、「分詞」とは別物。

分詞の形容詞的用法：分詞が名詞を修飾する用法。

- ① 単独で修飾し、名詞の前に分詞を置く。

I know the running girl.

(私は走っているその少女を知っている。)

- ② 他の語をとめない、名詞の後ろに分詞を置く。

I know the girl running over there.

(私は向こうを走っているその少女を知っている。)

分詞の形容詞的用法の文の作り方

「そのテニスをしている少女は私の妹です。」

- ① 主文を見つける。

「その少女は私の妹です。」

The girl is my sister.

- ② 修飾語を見つける。

「テニスをしている」

playing tennis

- ③ 主文の中に修飾語を名詞の後ろに入れる。

The girl playing tennis is my sister.

※上記の文は、②他の語をとめない、名詞の後ろに分詞を置くパターンの文。

過去分詞の形容詞的用法

I read the book written in English.

(私は英語で書かれた本を読んだ。)

単元名：間接疑問文

間接疑問文：疑問詞で始まる節が動詞の目的語になっている文。

間接疑問文の作り方

疑問詞 + 主語 + 動詞 + その他.

(What is this ?)

I don't know what this is.

(私はこれが何か知らない。)

→疑問文では is this だが、間接疑問文では this is (主語+動詞) になる。

(What do you have ?)

I know what you have.

(私はあなたが何を持っているか知っている。)

→疑問文の do はつけない。

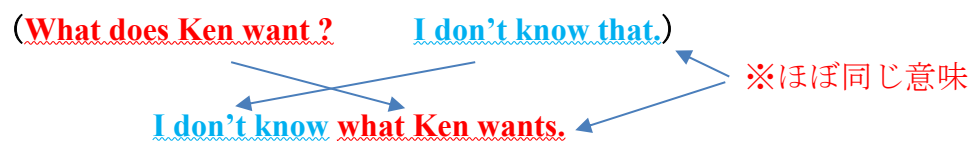
(Who broke that window ?)

I want to know who broke that window.

(私はあの窓を誰が壊したのか知りたい。)

→疑問詞が主語になっているので疑問詞 (主語) + 述語 になる。

書き換えの文



→疑問詞＋主語＋動詞の形や三人称単数の s などに注意。

単元名：関係代名詞

関係代名詞：文の中の名詞に対し、後ろから追加情報を付け足す語句。

関係代名詞の種類

先行詞：関係代名詞に導かれる節によって修飾される名詞（代名詞）のこと。

※節とは〈主語＋動詞〉を含む語句のこと。

①先行詞による使い分け

who は先行詞が「人」のとき、**which** は先行詞が「もの」「動物」のときに使う。**that** は先行詞が「人」「もの」「動物」のいずれの場合にも使う。

②文中での働きによる使い分け

関係代名詞には、I や He などの代名詞と同じように、文中での働きによって**主格**、**所有格**、**目的格**がある。詳しくは以下の通りである。

格	主格	所有格	目的格
先行詞			
人	who	whose	who
もの・動物	which	whose	which
人・もの・動物	that		that

関係代名詞の格

① 主格：関係代名詞の節で主語の働きをし、後に動詞が続く。

I have an uncle who lives in London.

先行詞 ^関係代名詞

(私にはロンドンに住んでいる叔父がいる。)

② 所有格：あとに名詞が続く。

I know that man whose name is Jane.

先行詞 関係代名詞

(私はジェーンという名前の男性を知っている。)

③ 目的格：関係代名詞の節で目的語の働きをし、あとに〈主語＋動詞〜〉が続く。また、目的格の関係代名詞は省略できる。

The sport that I play best is table tennis.

先行詞 関係代名詞

(私が一番やるスポーツは卓球です。)

関係代名詞の節の位置

① **主語** + **動詞** + **[先行詞 + 関係代名詞の節.]**



This is the camera that Lisa bought.

補語

(これはリサが買ったカメラです。)

※①のパターンの文は先行詞が目的語、補語などになる場合。

② **[先行詞 + 関係代名詞の節]** + **動詞〜.**



The camera that Lisa bought is expensive.

主語

(リサが買ったカメラは高い。)

※②のパターンの文は先行詞が主語になる場合。

目的格と前置詞：目的格の関係代名詞 that、which が、句動詞などの前置詞の目的語の働きをすることがある。

※句動詞とは〈動詞＋前置詞（副詞）〉のまとまりで1つの動詞と同じ働きをするもの。

- ① 前置詞を関係代名詞の前におく形

This is the pen. + I was looking for it.

This is the pen for which I was looking.

↳ 〈前置詞＋which〉の形は関係代名詞省略不可。

(これは私が探していたペンです。)

- ② 前置詞を関係代名詞の節の最後におく形。

This is the pen which I was looking for.

↳省略可。

(これは私が探していたペンです。)

先行詞に応じた使い分け

① that を使う場合

- ・先行詞が - thing の語や all などの場合

Is there anything **(that) I can do for you ?**

(私があなたにしてあげられることが何かありますか。)

- ・先行詞を特定の語句が修飾する場合：the first などの序数、形容詞の最上級、all、the same、the only などの先行詞を限定する語句。

This is the best movie **(that) I have ever seen.**

(これは私が今までに見た中で最高の映画です。)

② who を使う場合

- ・先行詞が動物でもペットなど親しい場合、「人」として扱うこともある。

I have a dog **who is five years old.**

(私は5歳の犬を飼っています。)

単元名：後置修飾

後置修飾：名詞を名詞の後ろから修飾すること。

後置修飾の種類

- ① 〈前置詞＋語句〉の文

The book on the desk is mine.


(机の上にある本は私のです。)


- ② 〈形容詞＋語句〉の文

This is a book useful to students.


(これは生徒に役立つ本です。)


- ③ 〈不定詞（＋語句）〉の文

He has many things to do.


(彼にはするべきことがたくさんあります。)

- ④ 〈現在（過去）分詞＋語句〉の文

That boy playing tennis is my friend.


(テニスをしているあの少年は私の友達です。)

This is a book written by her.


(これは彼女が書いた本です。)

接触節：名詞のあとに置かれ、その名詞を後ろから修飾する〈主語＋動詞（＋～）〉（節）のこと。

接触節の用法

- ① 文の補語になる

This is the picture she took in Kyoto.

(これは彼女が京都で撮った写真です。)

- ② 文の主語になる

The book I read yesterday was great.

(私が昨日読んだ本は素晴らしかった。)

- ③ 文の目的語になる

I know the boy Meg likes.

(私はメグが好きな少年を知っている。)

単元名：形容詞

形容詞：名詞を修飾する単語。

形容詞の用法

- ① 名詞を直接修飾する用法。

There is a **beautiful flower**.

(美しい花があります。)

※名詞 (flower) を形容詞 (beautiful) で修飾する。

- ② 主語を説明する用法

主語 + be 動詞 + 形容詞 + その他.

Ken is busy.

(ケン is 忙しい。)

主語 + 一般動詞 + 形容詞 + その他.

I got hungry.

(私はおなかがすいた。)

数や量を表す形容詞

	数えられる	数えられない
たくさんの	many	much
少しの	a few	a little
ほとんどない	few	little

There are **many children** in the park.



(公園にはたくさんの子ども達があります。)

※children は数えられるので many を使い、much は使わない。

There is **much water** in the lake.



(湖にはたくさんの水があります。)

※water は数えられないので much を使う。

単元名：副詞

副詞：動詞、形容詞、ほかの動詞を修飾する単語。種類によって文の中での位置が異なる。

副詞の種類

- ① **時を表す**：yesterday (昨日)、today (今日)、tomorrow (明日)、now (今)、then (そのとき)
- ② **場所を表す**：there(そこ)、here (ここ)、home (家で)、abroad (海外へ)、anywhere(どこでも)
- ③ **様態を表す**：slowly (ゆっくり)、carefully (注意深く) fast (速く)、early (早く)、hard (熱心に)、well (上手に)
- ④ **頻度を表す**：always (いつも)、often (よく、しばしば)、sometimes (ときどき)、usually (ふだん、たいてい)
- ⑤ **強調の副詞**：very (とても)、so (とても)、too (...すぎる)
- ⑥ **その他**：too (...も)、only (だけ)、just (ちょうど)、either (...も) also (...もまた)

時、場所を表す副詞の位置

文末に置く。時と場所両方を1つの文に入れるときは、場所+時の順。
また、時を表す副詞は文頭に置くこともある。

Tom played tennis there **yesterday**. (トムは昨日そこでテニスをした。)

様態を表す副詞の位置

動詞のあとに置く。動詞が目的語をとる場合は、そのあとに置く。

Ken studies math hard. (ケンは熱心に数学を勉強している。)

強調の副詞の位置

修飾される語（形容詞や副詞）の前に置く。

Emi plays tennis very well. (エミはとても上手にテニスをする。)

頻度、その他の副詞の位置

一般動詞の前、be 動詞のあとに置く。

Ken always gets up early. (ケンはずっと早く起きる。)

単元名：付加疑問文

付加疑問文：「～ですね」のように、相手に確認したり、同意を求めたりする、平叙文のあとにつける2語の疑問文であり、前にはコンマ(,)を打つ。

否定形の付加疑問文

英文は前の文が肯定文なら付加疑問文は否定形になる。

① be 動詞の文

～, 「be 動詞+not」の短縮形+主語(主格の代名詞)+?

Ann is very beautiful, **isn't she?** (アンはとても美しいですね。)

② 一般動詞の文

～, don't [doesn't, didn't]+主語(主格の代名詞)+?

This train stops at Sendai, **doesn't it?** (この電車仙台で止まりますよね。)

③ 助動詞の文

～, 「助動詞+not」の短縮形+主語(主格の代名詞)+?

You can play the flute, **can't you?** (あなたはフルートをできますよね。)

④ 現在完了形の文

～, haven't [hasn't]+主語(主格の代名詞)+?

You've already finished your homework, **haven't you?**

(あなたはもう宿題を終えましたよね。)

⑤ 命令文

~, **will** + **you** + ?

Go to the meeting for me , will you?

(私の代わりに会議に出て貰えますか。)

~, **shall** + **we** + ?

Let's have a short break , shall we? (少し休憩しましょうか。)

肯定文の付加疑問文

英文は前の文が否定文なら付加疑問文は肯定形になる。

John isn't wrong , is he? (ジョンは間違っていないですね。)

not 以外の否定語を含む文

Maki has never been abroad , has she?

(マキは一度も海外へ行ったことがないよね。)

You had nothing to eat , did you? (あなたは何も持っていませんでしたね。)

付加疑問文の答え方

問いの形関係なく、答えの内容が肯定なら **Yes**、否定なら **No** で答える。

否定の付加疑問文への応答

Ben is cool , isn't he? (ベンはかっこいいですね。)

—**Yes , he is.** (はい、かっこいいですね。)

—**No , he isn't.** (いいえ、かっこよくないですよ。)

肯定の付加疑問文への応答

Ellen didn't come to the party , did she? (エレンはパーティに来ませんでしたね。)

—**Yes , she did.** (いいえ、来ました。)

—**No , she didn't.** (はい、来ませんでしたね。)

単元名：文型

文の要素と文型：英文には、**S**（主語）・**V**（動詞）・**C**（補語）・**O**（目的語）の4つの要素と修飾語句があり、この4つの要素の組み合わせによって5つの文型に分類される。

- ※主語 (Subject) : 「～は、～が」にあたる語。
- 動詞 (Verb) : 「～する、～である」にあたる語。
- 補語 (complement) : 主語や目的語を説明する語。
- 目的語 (object) : 「～を、～に」にあたる語。

第1文型 (S+V) で成り立っている文「…は～する」

I talked with him. (私は彼と一緒に話した。)

S V

第2文型 (S+V+C) で成り立っている文

She looks happy. (彼女は幸せそうに見える。)

S V C

※S+V+Cの文で使われる動詞は be 動詞、become、look、get など。また、補語は名詞や形容詞。

第3文型 (S+V+O) で成り立っている文「…は__を～する」

He cleaned his room yesterday. (彼は昨日彼の部屋を綺麗にした。)

S V O

※目的語は名詞や代名詞のほか、動名詞や不定詞、that 節など。

第4文型 (S+V+O+O) で成り立っている文

「…は(人)に(もの)を～する」

My father gave me a bag. (私の父は私にバッグをあげた。)

S V O O

※第4文型で使われる動詞は、give、show、tell、buy、teach、ask、make、cook、get など。

第4文型と第3文型

第4文型は第3文型 (S+V+O+to[for]+人) で表すことができる。

She gave me a book. = She gave a book to me.

(彼女は私に (へ) 本をあげた。)

第5文型 (S+V+O+C) で成り立っている文

「…は (人などを) __と [に] ~する」

The news made them sad. (ニュースは彼らを悲しくさせた。)

s v o c

※第5文型は補語が目的語の属性や状態を説明する働きをし、意味上の O=C の関係にある。また、使われる動詞は call、name、make、keep などであり、call と name の場合、C は名詞。make、keep の場合、C は主に形容詞。

単元名：仮定法

仮定法：「もし、・・・であれば、～だろうに」と、現在の事実と異なること、可能性が薄いことについて述べるときは仮定法を使う。

「もし、・・・であれば～だろうに」

If+主語+動詞の過去形+その他,+主語+助動詞の過去形+動詞の原形+その他.

If I had wings, I could fly. (もし、私に翼があれば、私は飛べるだろうに。)

※可能性のある文には動詞や助動詞は現在形、例文の様に実現の可能性が無い文には仮定法を使う。

「～であればいいのに」

I wish+主語+動詞の過去形+その他.

I wish I had wings. (翼があればいいのに。)

「～できればいいのに」

I wish+主語+**could**+動詞の原形+その他.

I wish I could fly. (飛べればいいのに。)

【参考教材】

中学校英語学習サイト

<https://english.005net.com/youten.php>

監修：太田洋、久保野雅史 「学研 パーフェクトコース中学英語新装版」 株式会社学研プラス 2008年

明光義塾講習テキスト英語マスター3β 改訂版